

七五三水の桑名の橋わたる

藤田湘子

古くから、木曾川、長良川、揖斐川の濃尾平野下流の渡河は難しかったと言われている。

俳人、松尾芭蕉は伊賀の人。奥の細道への旅の後、伊勢神宮遷宮参拝の途中に、桑名に立ち寄っている。

有名な「明ほのやしら魚白き事一寸」の自筆短冊は、桑名神社に奉納され現存。今では伊勢湾台風で流された句碑に替わり、これを拡大した句碑が再建されている。

湘子の掲句のうまさは抜群。『俳句は意味ではなくリズムだ』と、何度も繰り返し指導していたのを思い出す。格調高く、リズム良く、説明しない。しかし、日本の伝統文化や地理、歴史に精通していれば、次から次へと様々なイメージが湧き立ってくる。

1991年(53作) 第九句集『前夜』 鑑賞・轍郁摩